

「卒業を迎え」

校長 神田 豊

今年は例年になく雪が多く一段と寒さが厳しい冬となっており、春の到来を待ち遠しく感じていた方も多いことでしょう。

さて、平成29年度も残り少なくなり、いよいよ卒業のシーズンを迎える時期になりました。今年度は3月5日に高等部、16日には小・中学部の卒業式がそれぞれ行われます。

小学部6年生15名のみなさんは、小学部の最上級生として学習活動に真剣に取り組んできました。運動会の「つなげ！ボールでGO!!」では、自らの力を最大限に発揮してボール競技に取り組みました。また、全体の種目でも中心となって活躍しました。新潟方面の修学旅行では水族館を見学したり、温泉に泊まったり、遊園地を楽しんだりなど、大きな経験を積むことができました。パワー祭りのステージ発表ではチームワークを発揮して「ドレミの歌」の発表に取り組みました。この一年間でも本当に大きく成長しました。4月からの中学部生活を十分に楽しんでください。

中学部3年生は5名で、他学年と比べると数の上では寂しかったかもしれませんが、一人一人が様々な場面で輝いていて、とても頼りになる3年生でした。作業学習では家庭班や工芸班の中心として活躍し、パワー祭りのイベント広場では大きな声を出して作業製品を販売しました。また、二泊三日の修学旅行では、バスや新幹線等の交通機関を利用し、水族館やディズニーランド等でたくさんの楽しい思い出をつくりました。家庭から離れ、お互いに助け合いながら生活した修学旅行で一段とたくましくなりました。4月からは高校生です。何事にも自分から進んで挑戦してください。

高等部3年生46名のみなさんは、本当に元気があり活発で、高等部だけでなく学校を代表して活躍しました。5月の県総体や10月の特別支援学校スポーツ大会では、日頃の部活動の成果を十分に発揮して輝かしい成績を修めることができました。また、特別支援学校の作業技能大会やアビリンピックでも作業学習で身につけた技術を発表することができ、こちらもすばらしい成績でした。パワー祭りにおいても全校生を引っ張り、素晴らしい学校祭に盛り上げてくれました。4月からは学校を離れますが、自分の希望に向かって胸をはり、輝かしい社会人の生活をスタートさせてください。会津支援学校の全員が皆さんの活躍を応援しています。

「進路希望の実現に向けて」

進路指導主事 佐藤 修一

今年度進路指導部として力を入れて取り組んできたことは、昨年に引き続き「職場開拓」と「関係機関との連携」です。そこにもう一つ加えたこととしては「自分で選んで自分で決める」ことです。高等部の生徒が増え、希望進路先も多岐にわたっています。進路指導部としては、適時適切な情報をこれからも各家庭へ提供していきたいと思います。学校の掲示板やホームページを今後も充実させていきたいと考えております。

また、高等部で行っている「産業現場等における実習」においては、今年度も相談支援専門員や「ふろんていあ」の職員に生徒の巡回指導に同行していただくことで、早くから生徒の情報共有をすることができました。卒業後の生活をより具体的に考えることができるようにグループホームの体験利用や実習の自転車通勤も許可制で導入しました。

今年度の卒業生の進路予定先は、生活介護事業所7名、就労継続支援B型事業所17名、進学1名、一般就労20名、その他1名となっております。

会津地区の福祉サービス事業所、企業様においては、高等部の産業現場等における実習をはじめ、父母と教師の会方部別の施設見学会、教職員の研修や施設見学においてたくさんのご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

児童生徒が本校で学んだ成果を社会で発揮し、地域の中でともに学び自立した生活を送ることができるよう今後も進路指導部として支援していきたいと思います。



高等部第Ⅲ期産業現場等における実習

「ヤマト運輸坂下センターにおいて」

2017・11・16

小学部 「豆まき ～鬼退治しました～」

今年度の豆まき集会は、インフルエンザの流行と重なったため、集会としては行わず、各学級での活動となりました。「鬼は外！」と鬼に向かって果敢に豆をまく姿は頼もしかったです。鬼退治をした後は、かみしもを着けた5年生が「福豆」を配りに来てくれました。今年の「福豆」は、高等部農芸班で栽培した落花生を使わせていただきました。



「雪遊び～寒さに負けず～」

校内での雪遊びでは、そり遊びや宝探し、雪だるま作りなどをしてたくさん遊びました。楽しそうな歓声が、なかよし広場や校庭に響いていました。



中学部 「第Ⅱ期校内実習 ～高等部、将来に向けて～」

今年度もゆめ工房『あいづ』として、活動を行いました。「製菓班」「紙工班」「リサイクル班①」「リサイクル班②」のグループに分かれて、5日間の作業に取り組みました。生徒達は活動に見通しをもち、自信をもってそれぞれの作業に取り組む姿がたくさん見られました。



「スノーフェスタ～地域の特色を生かした取り組み～」

今年度もアルツ磐梯スキー場に行き、スキー班、そり班に分かれて行う予定でしたが、学部閉鎖のため、実施できませんでした。事前学習では、各学級ごとに築山や校庭を利用し、会津ならではの雪上での活動を元氣に行うことができました。



高等部 地域に発信！ 一歩前進！ 生徒の自信！

これまで高等部作業班では、木工班や陶芸班、農芸班の交流及び共同学習や、クリーン班による若松駅等の校外清掃を実施し、地域との交流や地域での活動を行ってきました。今年度新たな試みとして、サービス班のデュアル学習や、校外での作業製品販売会を実施しました。ヨークベニマルでの販売会では、開始からお客様の関心を集め、陶芸製品を手にとったり、木工班製作の椅子の座り心地を試したりしながら、多くの方々に製品を購入いただき大盛況でした。店内に響き渡る自信にあふれた「いらしゃいませ」、「会津支援学校です」の声。お客様からの製品や学校に対する質問に答えたり、金銭のやり取りをしたりの対応。生徒たちは、日頃の学習の成果を発揮することができました。障がい者理解と生徒の社会参加・自立を目指すにあたっては、学習の場を地域に求めていくことの重要さとともに、校内における授業で取り上げる内容が地域社会と関わる内容であることや、卒業後を見据えた内容であることの必要性を改めて感じさせられました。



国語科 「国語の分野での児童生徒の活躍」

7月の福島県たなばた展では、全学部合わせて46名が出品し、特選7名をはじめ、数多くの児童生徒が入賞しました。

1月の福島県書きぞめ展でも、小学部3名、中学部4名、高等部5名が特選に輝きました。自分が筆を使って、読み取ったお手本の筆の運びに近づけて書くことが、楽しさの一つです。

そのほか、お手本通りに書くだけでなく、筆で書く楽しさ自体を味わうことができる、金澤翔子美術館主催の書きぞめ展や、『今、あなたに贈りたい漢字コンテスト』など、数多くのコンクールへの出品がありました。

また、7月と1月の2回、本校を会場に漢字検定試験を実施しました。合わせて、のべ62名の生徒と卒業生の皆さんが受験しました。

2回の検定試験で、それぞれ18名ずつの合格者が出ました。漢字を習得する楽しさはもちろんですが、継続した学習をする態度を身に付ける良さがあります。今後も、それぞれのコンクールの特徴を活かして、自分の良さを引き出すきっかけにしてほしいと思います。



金澤翔子美術館主催の
書きぞめ展の出品作品